

第43回全国都市緑化フェアin京都丹波 基本計画

令和7（2025）年1月

全国都市緑化フェアin 京都丹波推進協議会

目次

1	開催の趣旨	1
2	開催の目的	1
3	開催の意義	2
4	開催の基本方針	2
5	名称等	3
5-1	名称	3
5-2	開催テーマ	3
5-3	愛称	3
5-4	シンボルマーク	3
5-5	提唱	3
5-6	主催	3
5-7	開催期間	4
5-8	イメージキャラクター	4
5-9	入場方式	4
6	事業展開の基本的な考え方	5
7	会場計画	6
7-1	フェア会場	6
7-2	フェア拠点	8
7-3	フェアスポット	17
8	観客誘致・広報宣伝計画	18
8-1	観客誘致計画	18
8-2	広報宣伝計画	18
9	協働推進計画	19
10	出展展示計画	23
10-1	展示計画	23
10-2	出展コンテスト計画	24
11	会場運営管理計画	27
12	交通輸送計画	29
13	行催事計画	31
14	飲食・物販計画	33
15	協賛計画	34
16	事業推進計画	35

1 開催の趣旨

いま、現代社会における急速な都市化の進展が社会構造や生活様式の変化をもたらし、それに伴い人間関係の希薄化、地域コミュニティの脆弱化が進んでいます。このような変化の中で人々は、物質的な豊かさより精神的な豊かさを重視するようになっており、より心穏やかな生活を求めて地方に移住する人も増えています。

我々の住む京都丹波地域は、緑や風景に恵まれ、また、日本の原風景ともいえる素晴らしい景観があります。そして、この豊かな自然の恩恵を受けた食も豊富です。この地域で暮らすことは、心豊かな生活を送り、新たな時代の幸福社会の実現につながるものと考えます。

一方、全国各地で地方創生に向けた取り組みが進められてはいるものの、依然として地方は少子高齢化や人口減少といった問題を抱えています。京都丹波地域においても、少子高齢化や人口減少に伴い、地域社会の担い手不足や経済活動・社会活動の持続性の低下といった課題に直面しています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の急拡大を機に、地方で暮らしてもテレワークで都会と同じ仕事ができるとの認識が浸透したこともあり、地方移住の動きが加速しています。京都丹波地域は、京都市、大阪市、神戸市などの大都市近郊にあることから、移住者の増加が期待されることです。

このような社会背景を踏まえ、人と人とのつながり、賑わいや温もりのある地域社会の再生に向け、また、京都丹波地域の新たなステージの幕開けとして、亀岡市・南丹市・京丹波町の2市1町の自然環境を活かし、山から里・まち・公園へとつながる森林や草木、花と緑を“まるごと”楽しみ、新たな価値観を共有できる「第43回全国都市緑化フェアin京都丹波」（以下、京都丹波フェア）を2市1町と京都府が連携・協力して開催します。

また、緑が有する多様な機能を活用するグリーンインフラは、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくり、そしてSDGsの達成にも期待され、防災・減災のほか地域振興や地域環境も含めた幅広い分野に貢献することから、京都丹波フェアは、豊かな緑と風景や景観の持つ価値を再認識すると共に、この地域で暮らす喜びや誇り、郷土愛を育んでいくことが、緑を守り、地域の未来を切り拓いていくということの共通認識を持ち、その機運を醸成し、継承し、次世代につなげていくこととします。

さらに、訪れた方には、京都丹波地域の豊富な味覚を堪能していただくことと合わせて、地域の祭事等にも触れる機会を設け、歴史や文化、人々の営みなど、この地域の魅力をまるごと満喫していただくことにより、賑わいの創出や地域の活性化、将来の移住・定住にもつなげていくと共に、令和7（2025）年は、亀岡市の市制施行70周年、京丹波町の町制施行から20周年、令和8（2026）年は、南丹市の市制施行20周年となることから、京都丹波地域の豊かな緑と風景、景観、歴史や文化、食など、「京都丹波」を広く全国に発信できる機会として、地域全体を盛り上げていきます。

2 開催の目的

日本の原風景ともいえる農村・里山等緑豊かな自然が広がる「京都丹波」において、恵まれた環境と文化的価値、その魅力を地域に暮らす人々と訪れる人々が共に享受し、新たな地域振興のポテンシャルを生む機会をつくと共に、都市と農村の交流を促進し「こころ豊かなライフスタイル」による新たな時代の幸福社会の実現に寄与することを目的とします。

3 開催の意義

「環境」

を尊び

京都丹波の財産といえる自然等の資源を活かす

- ✓ 地域生態系や農地・里山の風景を守り、活かす
- ✓ 自然を敬い、自然と共にある暮らしの提案
- ✓ グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、ガーデンツーリズム等による花と緑のまちづくり



「食農」

を興し

「食農」を基幹とした地域経済の活性化

- ✓ 都市と農村の連携の促進、交流人口の増加
- ✓ 産官学民の協働による共感・共創のまちづくり
- ✓ 地場農産品のブランド化、付加価値の向上

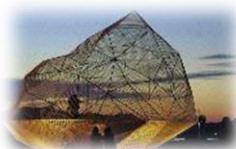


「芸術」

を魅せる

文化・芸術を通じた地域の魅力発見と振興

- ✓ 創造的で文化的な表現活動を通じたまちづくり
- ✓ 若い世代が憧れ、魅力を感じるまちづくり
- ✓ 地場産業・産品を育む諸活動の支援



4 開催の基本方針

(1) 京都丹波の地域色豊かな環境や風景、文化を体感・体験することにより、もうひとつの京都の魅力を堪能するフェア

- ✓ フェアの開催に合わせて京都丹波を巡りながら、地域の歴史、伝統、食、産業・技術等の資源を体感・体験することにより、これまでの京都観光とは違う日本の原風景など京都丹波の魅力を国内外の人々に向け発信します。

(2) 「食農」を基幹とした都市と京都丹波地域の交流による新たなライフスタイルを提案するフェア

- ✓ コロナ禍を経験し、効率性と便利さを追求した都市生活を離れ、「心の豊かさややすらぎ、安心安全な暮らし」を基調としたゆとりある地域での生き方、過ごし方を見直すことで、新たなライフスタイルを発見する好機とします。

(3) 子どもたちの豊かな感性を育み、“ふるさと”を愛する地域の担い手を育てつないでいくフェア

- ✓ 未来を担う子どもたちの心身の健やかな成長の実践の場を提供すると共に、文化・芸術による地域の魅力の発見や情報を発信することで、豊かな暮らしを定着させる機会とします。

5 名称等

5-1 名称

第43回全国都市緑化フェアin京都丹波

5-2 開催テーマ

食農と環境そしてアートで輝く「京都丹波」

5-3 愛称

京都丹波みどりの里まつり

5-4 シンボルマーク



5-5 提唱

国土交通省

5-6 主催

京都府
亀岡市、南丹市、京丹波町
公益財団法人都市緑化機構



開催地域位置図

5-7 開催期間

令和8（2026）年9月18日（金）～11月8日（日）をコア期間とします。

コア期間以外でも、京都丹波地域の様々な祭事・催しと積極的に連携し、地域の魅力を伝えていきます。



コスモス(亀岡市観光協会)



そばの花(南丹市美山観光まちづくり協会)



黒豆の枝豆(京丹波町観光協会)



マルシェ(京丹波町役場)

5-8 イメージキャラクター

亀岡市、南丹市、京丹波町のマスコットキャラクター「明智かめまる」、「さくらちゃん」、「京丹波味夢くん」を京都丹波フェア用にアレンジして活用します。

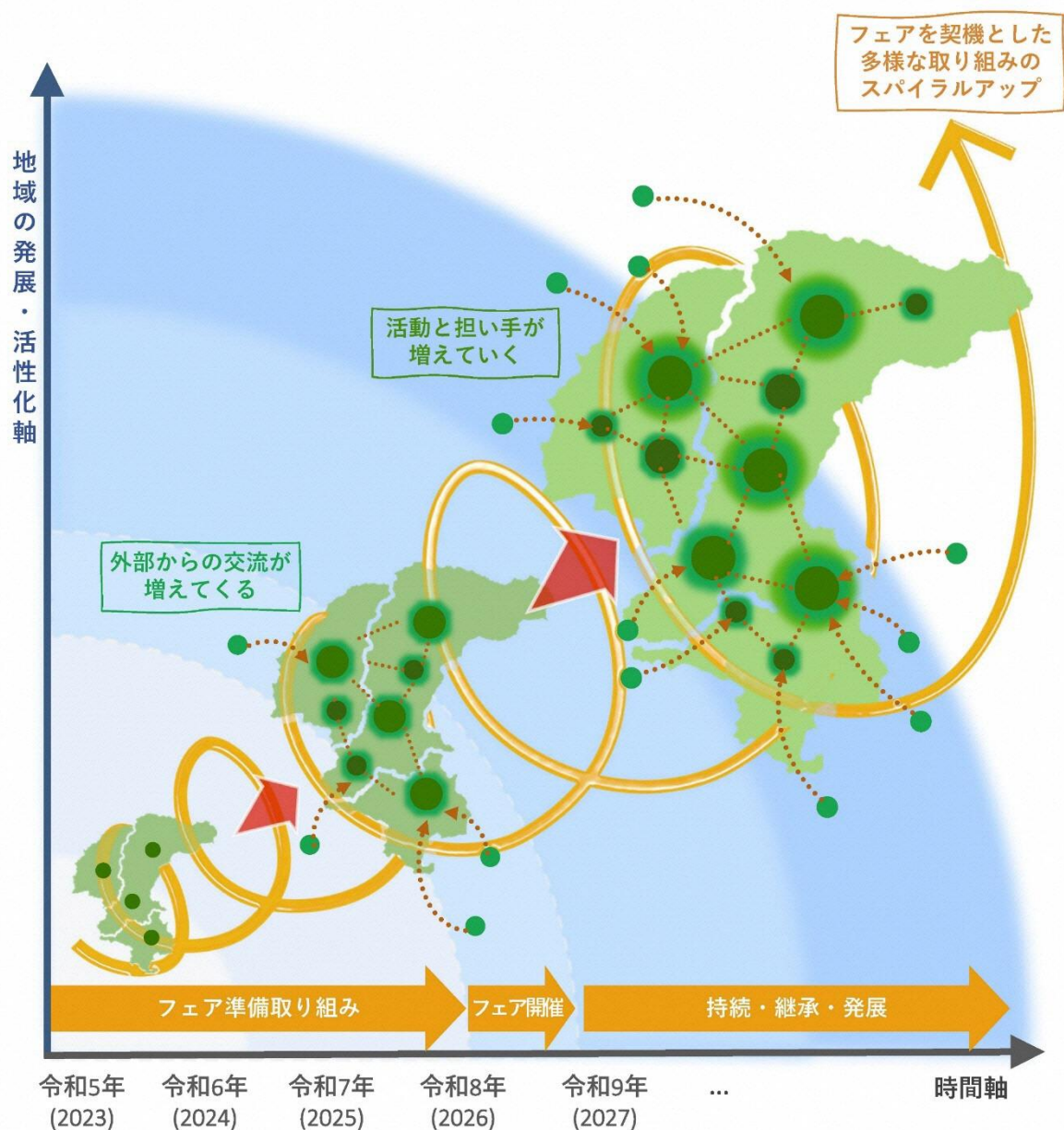


5-9 入場方式

各施設への入場について、京都丹波フェアで料金を徴収することはありません。
なお、既存の有料施設については、各運営主体が定める現行の料金体系とします。
また、特定のイベントやプログラムについては、別途料金の徴収を検討します。

6 事業展開の基本的な考え方

- 京都丹波フェアの事業全体を通じて、積極的に環境に配慮した取り組みを行うことで、地域の環境の価値の再認識につなげます。また、かけがえのない地域の環境を守っていくことの大切さが共通認識となり、次世代に継承され、活動が継続していくことを目指します。
- 京都丹波フェア開催の効果を一過性で終わらせないことを念頭に、フェアで行う様々な取り組みがレガシーを創出し、フェア閉幕後の京都丹波地域の持続的な発展や活性化につながるような事業展開を目指します。



事業展開の効果のイメージ

7 会場計画

7-1 フェア会場

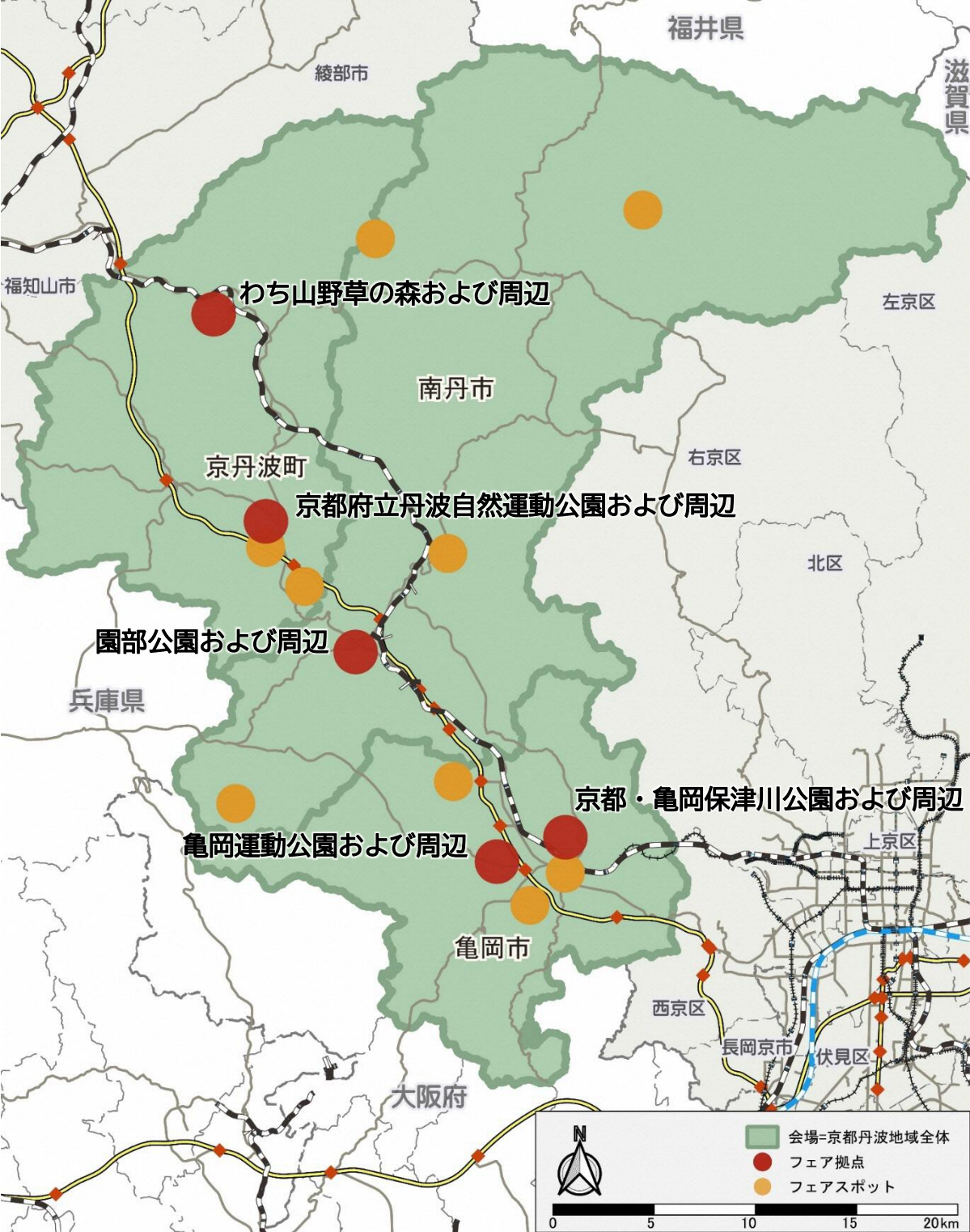
(1) 基本的な考え方

- 京都丹波地域には、豊かな自然と風景、それらと共にある営み、日本の原風景ともいえる景観、古くからの歴史や地域固有の文化など、多様な魅力をもつ資源や資産があります。
- 京都丹波フェアでは、フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、京都丹波地域全体を一つの会場とします。そして、京都丹波地域の特徴や資源・資産の魅力を感じられるエリアや場所を、地域の周遊、観光の拠点やスポットとして位置づけます。
- これらの拠点やスポットは2市1町それぞれに展開し、それらをつなぐことで、地域ごとの魅力や取り組みを発信し、地域全体で来訪者を迎え、京都丹波地域を満喫していただき、心豊かな生活を考えるきっかけとなるような体感や体験ができるフェアとします。
- 拠点やスポットでは、京都丹波フェアの計画・準備段階から、地域で活躍する人材や多様な主体が参加・交流することにより、多くの地域住民、来訪者が緑への関心や地域への愛着を持っていただけるフェアとします。
- また、京都丹波フェア開催に伴う様々な活動を通じて、地域住民や来訪者など多くの人々が交流し、フェアをきっかけに地域の魅力が向上、活性化し、さらには、地域振興や観光振興などにおいて新たなチャレンジや取り組みにつながるなど、今後の地域づくりに寄与するフェアとします。

(2) 展開イメージ

- 空間軸や時間軸を通じて「なぜ」を伝える会場づくりにより、京都丹波の世界観と魅力・価値を地域内外に発信し、地域住民の愛着を高めると共に来訪者の誘客につなげます。

※フェアスポットは未決定



京都丹波フェアの会場構成

7-2 フェア拠点

(1) 基本的な考え方

- ・ 各フェア拠点は、それぞれの立地や特徴を活かし、京都丹波フェアの目的・意義・基本方針が訴求する場とします。
- ・ 既存の施設状況を踏まえた構成や展示手法を取り入れた場とします。
- ・ 地域らしさを表現する多彩なコンテンツや、花や緑に関わる催しをはじめとした多様なイベントの展開により、京都丹波の多様な魅力を全国に発信する場とします。
- ・ イベントならではの楽しさや、改めて地域の良さを感じられるようなコンテンツを展開し、地域住民と来場者の交流を図ると共に地域への理解を促し、地域を盛り上げていく場とします。
- ・ 展開する様々なコンテンツに、京都丹波地域の食や、地域を盛り上げていく文化・芸術の要素を取り入れる場とします。
- ・ 地域住民にフェア拠点づくりの一端を担って頂き、地域を愛する心を育み、地域づくり活動に関わる機会を創出する場とします。
- ・ 地域を周遊、観光する拠点としての機能を持たせ、京都丹波地域のブランド価値を向上し、地域経済の活性化、地域振興、観光振興の一翼を担う場とします。
- ・ 企業、団体、地域住民などの出展・催事参加者にとっては、発表の舞台であり顕彰の場とします。自治体参加者にとっては、観光振興につながる場とします。
- ・ 展開する様々なコンテンツを通じて、グリーンインフラ活用の取り組みを推進すると共に関連する業界の振興を図ります。

(2) 計画方針

- ・ 京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を訴求する拠点として、5つのフェア拠点それぞれの立地や特徴、施設状況や管理状況を踏まえたコンセプトを定め、そのコンセプトに基づいて各コンテンツを展開します。展開する様々なコンテンツに、京都丹波地域の食や、地域を盛り上げていく文化・芸術・環境の要素を取り入れます。
- ・ 地域住民間や地域住民と来場者間の交流を図り、地域への理解を促し、愛着を育み、京都丹波地域を盛り上げるため、京都丹波フェアの主要なコンテンツ（展示・出展・行催事など）を多様な主体との協働・共創によって展開します。
- ・ 各地域のランドスケープにふさわしい花や修景方法をプランニングし、農家をはじめ多様な主体と連携することにより、京都丹波らしい「農の風景」を演出します。
- ・ 参加者にとって有益な機会となるように配慮し、各コンテンツを展開します。
- ・ 会場内の周遊・観光を促進するため、京都丹波地域の持つ多様な魅力や交通手段を紹介する情報コーナーを設けると共に、地域を周遊、観光する拠点としての機能を持たせます。
- ・ 人々にみどりの有用さを実感していただき、グリーンインフラ活用の取り組みを推進するため、みどりについての情報を提供するコンテンツ、みどりを利用するコンテンツ、みどりに触れるコンテンツなどを展開します。また、グリーンインフラを意識した整備を行います。
- ・ 多様な人々が楽しめるように、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮します。
- ・ 出展展示計画・行催事計画と連携し、使用する植物は、植物の特性と共に、京都丹波地域内や京都府内の生産状況や特徴、園芸産業の振興の観点を踏まえて選定します。
- ・ 使用する植物は、京都丹波地域内を中心に、京都府内で生産あるいは調達される植物を基本とします。
- ・ 地域住民への花きの普及、京都丹波フェアを契機とした新たな交流を生み出すことを目指して、使用する植物の一部については、協働推進計画と連携して、地域住民の協力・連携の下での育成、調達を目指します。
- ・ 生産団体や生産者、行政などとの連携・協力による安定的な生産・調達を目指します。
- ・ 使用した植物、材料などは、安易に廃棄することが無いよう、再利用に取り組みます。

(3) 各フェア拠点のコンセプトと展開イメージ

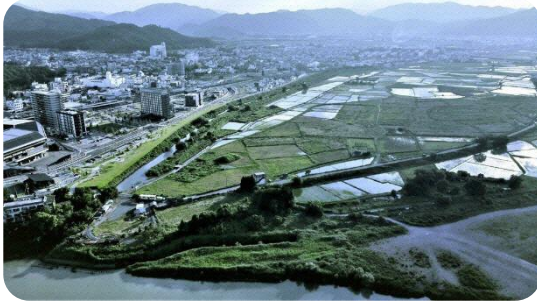
場所/コンセプト	イメージ
1) 京都・亀岡保津川公園および周辺 →京都丹波の農に触れる拠点	京都丹波地域の豊かな自然と、その上に成り立つ営みである農の体感・体験を通じて、地域や農、環境への理解を促し行動変容につながる拠点
2) 亀岡運動公園および周辺 →京都丹波の造園・園芸を知る拠点	隣接するコスモス園と連携したスケール感のある華やかな修景の中で、多様な主体による屋外展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、地域の魅力を発見・再認識して地域づくりへとつなげる拠点
3) 園部公園および周辺 →京都丹波の歴史・文化を知る拠点	歴史を感じさせる落ち着いた修景の中で、多様な主体による屋内展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、京都丹波地域への愛着を深める拠点
4) わち山野草の森および周辺 →京都丹波の植物に触れる拠点	京都丹波地域の豊かな緑・多彩な植物との触れ合いを通じて植物の豊かさ、大切さを学ぶと共に京都丹波の魅力に触れる拠点
5) 京都府立丹波自然運動公園および周辺 →京都丹波のグルメ・イベントを楽しむ拠点	地域の食や、花や緑の普及啓発をはじめとした地域の魅力を伝える多様なイベントを通じて、人が集まり、交流し、地域の魅力を満喫する拠点

1) 京都・亀岡保津川公園および周辺（京都丹波の農に触れる拠点）

京都・亀岡保津川公園の概要

13.9ha（未整備）。フェア開催に向け都市公園整備実施予定。

背景には里山が連なり、眼前には桂川、水田、アユモドキの生息場が広がり、京都丹波地域ならではの里山と盆地の特徴を感じられる場所。



拠点全体のイメージ

京都丹波地域の豊かな自然と、その上に成り立つ営みである農の体感・体験を通じて、地域や農、環境への理解を促し行動変容につながる拠点

展開コンテンツのイメージ

- 京都丹波の自然素材を使ったアートの展示
- 作品性のある農小屋を活用したアートの展示
- 地域住民との協働でつくる「農家の庭」の展示
- オーガニック農園体験エリアや市民農園エリアの整備
- グリーンインフラの拠点として、地域の生態系や環境について学べる場の整備
- 拠点のイメージを踏まえた小学生によるコンテナガーデンなどの展示
- 農の環境を活用したアウトドア体験の提供
- 地域のグルメを楽しんだり、農産物を購入したりできる場の創出



2) 亀岡運動公園および周辺（京都丹波の造園・園芸を知る拠点）

亀岡運動公園の概要

亀岡市管理の都市基幹公園（運動公園）。供用15.9ha。指定管理導入。

園内にはかめおか国際交流記念公園があり、多くの市民が利用する場所。隣接するコスモス園は秋の風物詩。

亀岡運動公園の施設

体育館、競技場、野球場、プール、ジャンヂーランド（野外ステージ）、クニッテルウッドランド、スティルウォーターランド、多目的広場、芝生広場、等



拠点全体のイメージ

隣接するコスモス園と連携したスケール感のある華やかな修景の中で、多様な主体による屋外展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、地域の魅力を発見・再認識して地域づくりへとつなげる拠点

展開コンテンツのイメージ

- ・ デザイナーによるメインガーデンの展示
- ・ 花と緑をゆっくり楽しむボードウォークの整備
- ・ 陸上競技場の壁を活用した空間装飾展示
- ・ 現代アートの展示
- ・ 京都丹波フェアのテーマに沿った庭園作品の展示
- ・ 自治体によるPR出展
- ・ 拠点のイメージを踏まえた小学生によるコンテナガーデンなどの展示
- ・ 愛好家のハンギングバスケットとコンテナガーデンの展示
- ・ 地域住民から募集する作品の展示
- ・ 全国造園デザインコンクール受賞作品の展示
- ・ 子どもが楽しめる遊具やアート空間の整備
- ・ 地域のグルメを楽しめる場の創出
- ・ 地域住民との協働でつくる修景花壇の設置



3) 園部公園および周辺（京都丹波の歴史・文化を知る拠点）

園部公園の概要

南丹市管理の都市基幹公園（総合公園）。供用19.0ha。昭和31年供用開始。
南丹市の中心市街地に隣接し、わが町を見渡せる小麦山がある都市公園。地域の歴史を感じさせる国際交流会館、文化博物館が隣接。

園部公園の施設

体育館、競技場、野球場、多目的運動場、芝生広場、イベント広場、コミュニティ広場、小麦山、散策路、女性の館、等



拠点全体のイメージ

歴史を感じさせる落ち着いた修景の中で、多様な主体による屋内展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、京都丹波地域への愛着を深める拠点

展開コンテンツのイメージ

- ・ 多様な主体との協働による作品の展示
- ・ 京都丹波フェアらしいシンポジウムや講演などの開催
- ・ 地域の伝統芸能、祭事などの文化体感メニューの創出
- ・ 史跡や食を巡るサイクルツアー、グルメツアーなどの実施
- ・ 健幸緑花のまちをPRする事業の実施
- ・ 京都丹波地域の眺望を楽しむ場の創出



4) わち山野草の森および周辺（京都丹波の植物に触れる拠点）

わち山野草の森の概要

京丹波町保有施設。供用12ha。一般財団法人運営。

里山のふもと、由良川沿いに広がる癒しの自然活用型公園で、約900種の山野草や花木の、素朴で美しい姿を見られる場所。

わち山野草の森の施設

展示園（樹木(約180種)、山野草(約720種)）、温室、生産ハウス、売店、展示研修室、イベント広場、遊歩道、等



拠点全体のイメージ

京都丹波地域の豊かな緑・多彩な植物との触れ合いを通じて植物の豊かさ、大切さを学ぶと共に京都丹波の魅力に触れる拠点

展開コンテンツのイメージ

- ・ 京都丹波の豊かな自然に触れられるみどりのトンネルの整備
- ・ 地元産材を使った小・中学生のプランター作品の展示
- ・ 森を使ったアート作品展示イベントの開催
- ・ 山野草展の開催
- ・ 地域のグルメを楽しめるミニイベントの開催
- ・ 山野草への理解を深めるためのイベントの開催



5) 京都府立丹波自然運動公園および周辺（京都丹波のグルメ・イベントを楽しむ拠点）

京都府立丹波自然運動公園の概要

京都府立の大規模公園（広域公園）。指定管理導入。供用53.2ha。昭和45年供用開始。高原ならではの起伏のある地形と豊かな緑に彩られた都市公園。京都府中部地域の中核をなす公園施設として多くの府民が利用。

京都府立丹波自然運動公園の施設

体育館、競技場、軟式野球場、球技場、プール、ジャイアントスライダー、こどもの広場、わくわくアスレチックパーク、ピクニックの丘、丹波天文館、菖蒲池、花岡山、クロスカントリーコース、散策道、トレーニングセンター、等



拠点全体のイメージ

地域の食や、花や緑の普及啓発をはじめとした地域の魅力を伝える多様なイベントを通じて、人が集まり、交流し、地域の魅力を満喫する拠点

展開コンテンツのイメージ

- 地元産材を使った小・中学生のプランター作品の展示
- 田んぼアートの展示
- 地域のグルメを楽しめるイベントの開催
- 地域住民による菊花展の開催



京都・亀岡保津川公園および周辺（京都丹波の農に触れる拠点）の事業展開イメージ

京都丹波地域の豊かな自然と、その上に成り立つ営みである農の体感・体験を通じて、地域や農、環境への理解を促し行動変容につながる拠点

京都丹波の自然素材を使ったアート



作品性のある農小屋を活用したアート



協働でつくる「農家の庭」



小学生によるコンテナガーデン



出典）国土地理院（<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=s&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>）

オーガニック農園体験エリア・市民農園エリア



地域の生態系や環境について学べる場



地域のグルメを楽しんだり、農産物を購入したりできる場



農の環境を活用したアウトドア体験



亀岡運動公園および周辺（京都丹波の造園・園芸を知る拠点）の事業展開イメージ

隣接するコスモス園と連携したスケール感のある華やかな修景の中で、多様な主体による屋外展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、地域の魅力を発見・再認識して地域づくりへとつなげる拠点

デザイナーによるメインガーデン



協働でつくる修景花壇



フェアのテーマに沿った庭園作品

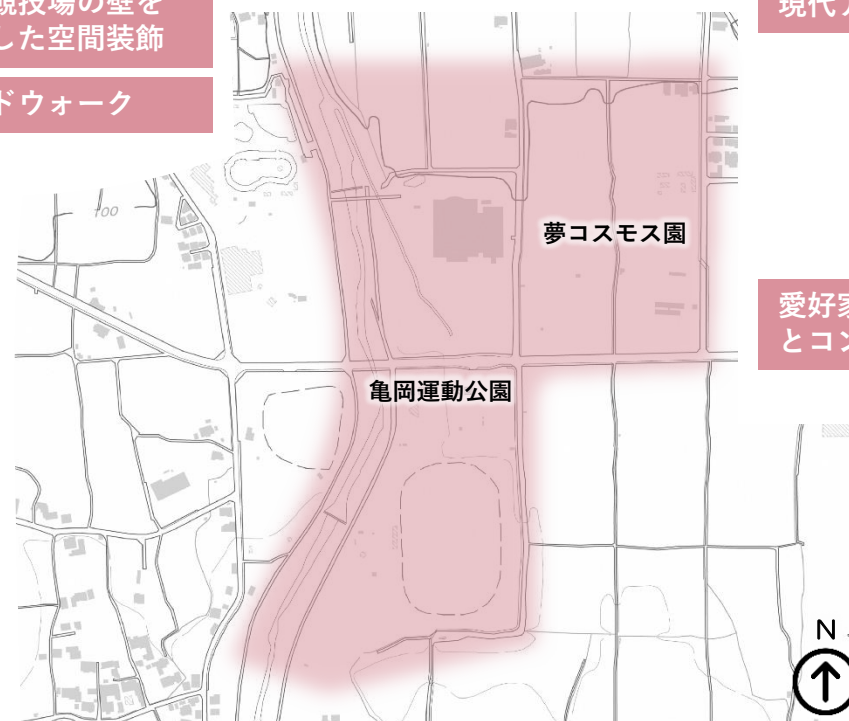


自治体によるPR出展



陸上競技場の壁を活用した空間装飾

ボードウォーク



出典）国土地理院（<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=s&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>）

現代アート



地域住民の作品



愛好家のハンギングバスケットとコンテナガーデン



子どもが楽しめる遊具やアート空間



小学生のコンテナガーデン

全国造園デザインコンクール受賞作品

地域のグルメを楽しめる場

園部公園および周辺（京都丹波の歴史・文化を知る拠点）の事業展開イメージ

歴史を感じさせる落ち着いた修景の中で、多様な主体による屋内展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、京都丹波地域への愛着を深める拠点

伝統芸能、祭事などの文化体感



多様な主体との協働による作品



史跡や食を巡るサイクルツアー、グルメツアー

京都丹波地域の眺望を楽しむ場

健幸緑花のまちをPRする事業



京都丹波フェアらしいシンポジウムや講演など



出典) 国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=s&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)

わち山野草の森および周辺（京都丹波の植物に触れる拠点）の事業展開イメージ

京都丹波地域の豊かな緑・多彩な植物との触れ合いを通じて植物の豊かさ、大切さを学ぶと共に京都丹波の魅力に触れる拠点

みどりのトンネル



山野草展の開催



アート作品イベント



山野草理解を深めるイベント



地元産材を使った小・中学生のプランター作品

地域のグルメを楽しめるミニイベントの開催



出典) 国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=s&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)

京都府立丹波自然運動公園および周辺（京都丹波のグルメ・イベントを楽しむ拠点）の事業展開イメージ

地域の食や、花や緑の普及啓発をはじめとした地域の魅力を伝える多様なイベントを通じて、人が集まり、交流し、地域の魅力を満喫する拠点

地域のグルメを楽しめるイベント



地元産材を使った小・中学生のプランター作品



地域住民による菊花展



田んぼアート



出典) 国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=s&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)

7-3 フェアスポット

(1) 基本的な考え方

- 京都丹波地域全体をフェア会場として捉え、地域の多様な魅力を表現するため、フェア拠点に加えて、「自然・風景・景観」「食・くらし」「文化・芸術」「歴史・伝統」「活動・スポーツ・レクリエーション」「休養」などにスポットを当てた場所などを「フェアスポット」として設定します。
- 「フェアスポット」の選定にあたっては、単なるテーマ別分類ではなく、京都丹波地域全体または地域ごとのストーリーを設定のうえ選定し、「フェアスポット」を巡ることで京都丹波への理解を深める狙いを持たせます。これにより、過去から未来へと繋がる京都丹波の将来性や地域性をより細やかに反映させ、独自性のある体験としての質を高めます。
- 「フェアスポット」の設置運営にあたって、地域協働を推進し、連動した行催事や地域協働によるプログラムの創出を検討し、より魅力的な場の実現を目指します。

(2) 計画方針

- フェアスポットは、これまでのキャンペーンなどでピックアップされた施設や場所に加え、地域住民だからこそ知っている京都丹波の魅力を表現するスポットを収集し、地域性や回遊性などを考慮しながら、一定のストーリーのもと、歴史や文化、その地域ならではの魅力に触れ、認知を深めるような仕組みを目指します。
- 京都丹波をより印象深く感じてもらうための体験価値の向上に向けて、交通輸送計画、協働推進計画、広報宣伝計画などと連携し、フェアスポットごとの魅力に留まらず、京都丹波地域全体の魅力として効果的に伝えます。

(3) 展開イメージ

- フェアスポットのストーリーとは、京都丹波地域全体または地域ごとの魅力の「なぜ」を空間軸や時間軸で魅せる物語を持った文脈のことを指し、フェアスポットを単なる場所の集まりではなく、意味のあるつながりを持った体験として提示するための枠組みとします。
- ストーリーを軸として導入することで、個々のスポットを単独で評価せず、歴史、文化、自然、産業などの多様な要素を有機的に結びつけ、地域全体の文脈の中で体験を提供します。また、ストーリーの方向性に共感する地域住民や民間事業者の参加を促し、地域のアイデンティティの強化や、フェア後の継続可能な地域への影響を残しやすくします。
- フェアスポットは、地域の過去から未来をつなげるストーリーとして位置付け、各市町の持つシビックプライドと密接に結びつけることで、まちづくりにおける戦略的なプロジェクトとして機能し、持続的な地域発展に寄与することを目指します。
- ストーリーは、フェアスポットにおける体験や京都丹波の周遊プランの構築も見据えて設定し、各計画と連携することでより効果的なものとします。

8 観客誘致・広報宣伝計画

8-1 観客誘致計画

(1) 基本的な考え方

- 様々なエリアやターゲットなどに対し、京都丹波フェアの計画・準備段階から観客誘致方策を展開します。
- 京都丹波の地域資源、観光資源を発信する事業、主催自治体による各種キャンペーン事業と連携した誘客方策や交通機関を活用した誘客方策など、府内をはじめ、近畿圏、全国、海外の来訪者に向けた観客誘致を展開し、その検証を行います。

(2) 計画方針

- 広報宣伝と連携し、京都丹波フェアの準備段階から、対象とするエリアやターゲットごとに最適な手法を用い観客誘致活動を展開します。
- 効率的かつ効果的に誘客広報を推進するための広報誘致戦略を企画展開します。
- 京都丹波の地域資源、観光資源、イベントなどを活用し、誘客効果の最大化を図ります。
- 京都丹波フェアの準備段階における協働の取り組みやアイデアなどを発信することで、開催機運を高め、誘客効果の最大化を図ります。
- 京都丹波地域外の方への誘致活動を積極的に展開します。

(3) 展開イメージ

- 広報誌やホームページ、地元ケーブルテレビなどで、地域住民の理解や参加意識を高める施策を講じ、地元での開催機運の醸成を積極的に進めます。
- 協働、連携先との関係づくりを早期に着手・構築し、フェア開催前から各種メディアを効果的に活用して、来訪者への情報訴求を展開します。
- 京都府民や京都に来られる国内外の観光客へ直接的に情報訴求します。

8-2 広報宣伝計画

(1) 基本的な考え方

- 観客誘致方策と連動し、時期、集客エリア、ターゲットに対応した広報宣伝活動を展開します。
- ホームページやSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などのデジタルコンテンツを有効に活用した広報宣伝を展開します。
- 開催までの準備情報を継続的に発信し、開幕への機運を高める広報活動を展開します。
- 多様な情報交流を促す情報インフラの整備、活用などにより、地域活性化につながる広報活動を 目指します。

(2) 計画方針

- 京都丹波フェアの準備段階から知ってもらい、関わってファンになってもらう広報宣伝活動を展開します。
- 観客誘致計画と連動し、エリアやターゲット、費用対効果を踏まえた広報宣伝活動を展開します。
- 計画段階におけるリサーチ、検討プロセスを発信する広報宣伝活動を展開します。
- 京都丹波フェアに参画する様々な主体による口コミ、協賛、個別広報など、多くの人が広報を担える仕組みの構築を目指した広報宣伝活動を展開します。
- 公式ホームページの開設やデジタル広告などの情報インフラ整備、活用などを進め広報活動を展開します。

(3) 展開イメージ

- 行政広報を積極的に活用します。
- 多様な主体との連携による情報発信拠点・シーンを最大限創出します。
- 注力エリアを設定したうえで、ターゲット・マーケティングファネル・シーズンモチベーションごとに広報活動を展開します。

9 協働推進計画

(1) 基本的な考え方

- 京都丹波フェアの計画、準備の段階から地域の多様な主体と積極的に協力・連携し、開催機運を醸成すると共に、フェアが一過性で終わることなく、地域の活性化や京都丹波地域の発展につながる事業展開を目指します。
- 京都丹波フェアが、様々な交流・協働の「場」となり、地域を活性化する新しいことへのチャレンジや今後の地域活動を支える担い手の育成につなげ、その検証を行います。

(2) 計画方針

- 既存の取り組みとの連携などにより、多様な主体やボランティアによる会場づくり、出展展示、広報宣伝などの関連事業の計画や、その実施と運営への参画を積極的に促します。
- 次世代の育成を目的とした協働に関する取り組みを展開します。
- 地域課題の解決につながる取り組みと地域間の連携をつくるプログラムの開発を行います。
- 多様な主体やボランティアが、フェア終了後も京都丹波地域のまちづくりで活躍できるための仕組みづくりと協働企画を、フェアを通じて行います。

(3) 展開イメージ

1) 協働の対象となる主体の想定と各主体へのアプローチ方法

①協働の対象となる主体の想定

- 地域の様々な課題解決に取り組む活動を行っている人・団体
- 環境・食農・芸術を学ぶ人、生業とする人、関心のある人・団体
- その他、京都丹波フェアにおける協働に関心のある人・団体

②各主体へのアプローチ方法

- 協働の対象となる主体のリサーチ
↓
- グループでのワークショップやヒアリングなどにより、具体的な協働に関する企画とその実施・運営方法の検討
↓
- 実施計画以降、各企画の実施・運営方法を各主体と協働して具体化

2) 各計画における協働の内容

- 基本計画の段階から各計画の内容に関する共有と意見の収集などを行い、協働企画への積極的な参画を促します。

各計画における協働の内容と流れ

計画区分	1 基本計画	2 実施計画	3 フェア準備期間・開催中	4 フェア開催後
会場計画	◎計画の共有と意見の収集 ◎フェアスポットの公募 ◎植物調達で連携可能性のある生産者、農家、高校、コミュニティのリサーチ	◎会場計画づくりへの参画 ◎フェアスポットの運営計画づくり ◎花苗の育成	◎会場の協働整備・運営 ◎フェアスポットの運営 ◎植栽の手入れ	◎フェアスポット運営の継続・発展 ◎植栽手入れの継続
出展展示計画	◎計画の共有と意見の収集 ◎出展展示アイデアの収集	◎展示計画づくりへの参画 ◎出展展示作品の公募	◎展示作品の協働整備・運営	
行催事計画	◎計画の共有と意見の収集	◎行催事計画づくりへの参画	◎行催事の運営参加	◎まちづくり活動に有効な行催事の継続
会場運営管理計画	◎計画の共有と意見の収集	◎会場運営計画づくりへの参画 ◎会場運営スタッフの公募	◎会場の運営参加	
観客誘致・広報宣伝計画	◎計画の共有と意見の収集	◎広報計画づくりへの参画 ◎ローカルメディアを活用した地域ごとの周知	◎ローカルメディア、口コミ、SNSなどを活用した参加者拡大への連携	◎まちづくり活動に有効なローカルメディアなどの継続
協賛計画	◎計画の共有と意見の収集	◎協賛計画づくりへの参画		
交通輸送計画	◎計画の共有と意見の収集	◎交通輸送計画づくりへの参画 ◎交通輸送手法などへの協力可能性の検討	◎交通輸送手法などへの参画や活用	◎交通輸送手法などへの参画や活用
協働推進計画	◎ワークショップを通じた計画の共有と協働の可能性の検討	◎協働推進計画づくりへの参画 ◎地域ごとの協働企画づくり	◎協働企画の実施	◎協働企画の継続
飲食・物販計画	◎計画の共有と意見の収集	◎飲食・物販計画づくりへの参画 ◎地域の商店街や店舗と連携した飲食・物販企画づくり	◎飲食・物販企画の実施	◎まちづくり活動に有効な飲食・物販企画の継続
事業推進計画	◎計画の共有と意見の収集	◎協働を基礎とした事業推進プラットフォームづくりへの参画	◎事業推進プラットフォームへの参画	◎まちづくり活動に有効な枠組みの継続

※今後の協議により、内容を修正することがあります。

3) 各主体における協働の内容

- 基本計画の段階からワークショップやヒアリングなどを行い、協働企画のアイデアを収集して実施します。

各主体における協働の内容と流れ

各主体	1 基本計画	2 実施計画	3 フェア準備期間・開催中	4 フェア開催後
ワークショップ参加者・まちづくり団体	◎計画の共有と意見の収集 ◎個別ヒアリング	◎実施計画への参画 ◎協働企画づくりの連携	◎協働企画の実施・参加	◎協働企画活動の継続 ◎新たな連携の枠組みを構築
小中学生以下	◎地元小中学校などの現況リサーチ	◎協働企画づくりの連携	◎協働企画の実施・参加	◎協働企画活動の継続
高校生	◎計画の共有 ◎地元関連高校の現況リサーチ	◎協働企画づくりの連携	◎協働企画の実施・参加	◎協働企画活動の継続
大学生	◎計画の共有 ◎関心のある大学の現況リサーチ	◎協働企画づくりの連携	◎協働企画の実施・参加	◎協働企画活動の継続
造園・緑化団体関係者	◎関係者の現況リサーチ	◎関係者への計画共有 ◎協働企画づくりの連携（人材発掘・育成など）	◎協働企画の実施・参加	◎協働企画活動の継続 ◎新たな連携の枠組みを構築
農林漁業関係者	◎関係者の現況リサーチ	◎関係者への計画共有 ◎協働企画づくりの連携（人材発掘・育成など）	◎協働企画の実施・参加	◎協働企画活動の継続 ◎新たな連携の枠組みを構築
飲食・物販・観光など関係者	◎関係者の現況リサーチ	◎関係者への計画共有 ◎協働企画づくりの連携（人材発掘・育成など）	◎協働企画の実施・参加	◎協働企画活動の継続 ◎新たな連携の枠組みを構築
デザイナー・アーティスト・工芸家	◎関係者の現況リサーチ	◎広報、展示などにおける地元デザイナーとの協働	◎協働企画の実施・参加	◎協働企画活動の継続
地域住民	◎住民に関する現況リサーチ ◎公募などへの応募	◎SNS広報、ローカルメディアなどにおける拡散協力	◎協働企画への参加	◎継続する協働企画活動への参加 ◎コミュニティの強化
企業	◎企画連携、協賛などの可能性のある企業に関する現況リサーチ	◎企業連携企画、協賛企画の検討	◎企業連携企画、協賛企画の実施	◎協働企画活動への協賛、広報などの継続
来訪者	◎現況リサーチ	◎SNS広報、各種メディアなどにおける拡散協力	◎協働企画への参加	◎継続する協働企画活動への参加

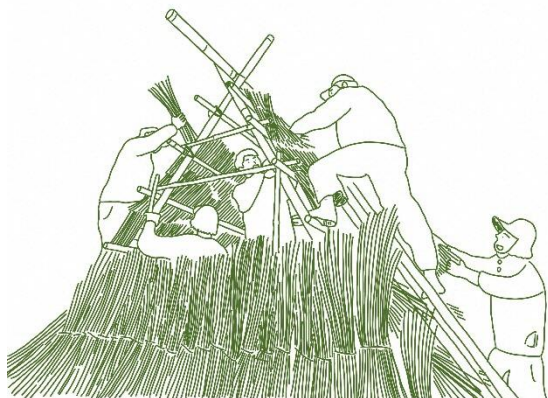
4) 協働企画の実施までの流れと展開イメージ

①実施までの流れ

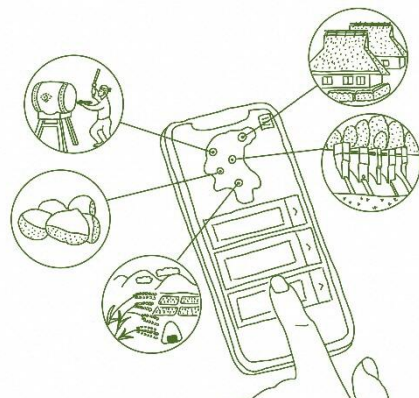
- 基本計画において3回実施した地域協働ワークショップで得られたアイデアなどをもとに、実施計画以降に実施します。

②展開イメージ

- 地域協働ワークショップで出た協働企画のアイデア



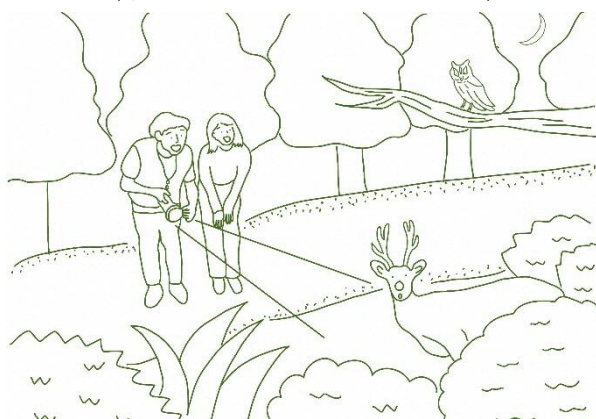
茅葺きテントの設置（会場計画）



会場案内アプリの開発
（観客誘致・広報宣伝計画など）



草刈り選手権（行催事計画）



ワイルドナイトサファリ
（夜の野生動物・生物観察）



古いバスで各拠点を巡る
（交通輸送計画）



河川敷フェス（行催事計画）

10 出展展示計画

10-1 展示計画

(1) 基本的な考え方

- ・ 京都丹波地域の自然、花・緑、歴史、文化・芸術、わが国のくらしや原風景の源である農など、地域資源を活用し、地域らしさを体験・体感できる展示を展開します。
- ・ 計画・準備段階から、地域で活躍する人材や多様な主体に参加・交流していただくことで、地域の魅力の向上、活性化を図ります。
- ・ 既存の施設状況を踏まえた展示とします。
- ・ イベントならではの楽しさや、改めて地域の良さを感じられるような展示とします。

(2) 計画方針

- ・ フェア拠点に展開する展示は、各場所のコンセプトに合わせた展示とし、京都丹波地域が持つ様々な地域資源に触れ、その魅力を体感できる展示とします。
- ・ 心を豊かにする文化・芸術を展示に取り入れると共に、京都丹波全域の芸術家が活躍できる場を創出します。
- ・ 展示は、主催者が制作・創出する「主催者展示」と、主催者と多様な主体との協働により制作・創出する「協働展示」に大別します。
- ・ 協働展示については、京都丹波フェア開催前から実施する協働の取り組みと一体的に行います。地域の未来の担い手となる個人や団体など幅広い主体に参加していただき、協働でつくりあげることで、フェア閉幕後の京都丹波地域の持続的な発展や活性化につなげる展示とします。
- ・ 展示に使用する植物や資材などは、各拠点のコンセプトや景観、雰囲気、展示の内容、地域で産出されるものであるかなどを踏まえて設定します。また、環境に配慮した素材選びに努めます。

(3) 展示の区分

区 分	定 義
主催者展示	京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、主催者が計画・設計・施工（製作）・運営管理を行う展示
協働展示	京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、主催者が多様な主体と共に計画・設計・施工（製作）・運営管理の全て又はその一部を参加協働で行う展示

《参考：京都丹波フェアにおける展示・出展・コンテストの定義》

展示：京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、主催者が企画、デザイン、施工（制作）する展示物を見せるもの、あるいは、主催者と多様な主体が協働して企画、デザイン、施工（制作）する展示物を見せるもの

出展：参加者が企画、デザイン、施工（制作）する作品を見せるもの、あるいは、主催者が京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえて設定したテーマや作品形態に基づき、参加者が制作する作品を見せるもの

コンテスト：出展された作品を区分ごとに審査し、技術や出来ばえ、将来性（普及性）などを評価する催し

10-2 出展コンテスト計画

(1) 基本的な考え方

- ・ 企業団体や学校、花・緑の愛好家やNPO、ボランティア団体の日頃の活動成果を発揮する出展、技術交流や情報交換、さらには他分野との交流を促し、京都丹波フェアを契機とした地域活性に向けたネットワークづくりにつながる出展を展開します。
- ・ 地域らしさを表現する多彩なコンテンツの展開により、京都丹波の多様な魅力を全国に発信する出展とします。
- ・ イベントならではの楽しさや、改めて地域の良さを感じられるような出展とします。
- ・ 京都丹波地域の食や、地域を盛り上げていく文化・芸術の要素を取り入れます。
- ・ 造園技術や花や緑の活動などを評価顕彰し、その技術や活動の情報発信と一層の地域貢献につながるコンテストを展開します。

(2) 計画方針

- ・ 花と緑に関わる全国からの様々な主体による出展に加え、京都丹波地域ならではの新しい主体の参加や、新しいスタイルでの出展手法を取り入れ、全国性と地域性が融合されたコンテンツとすることで、京都丹波フェアの魅力づくりにつなげます。
- ・ 出展者や来場者にも環境について考えていただく機会となるよう、京都丹波地域の自然、花・緑、歴史、文化・芸術、農などを念頭に置いた出展のテーマや作品形態、出展手法を設定するなど、随所に京都丹波らしさを盛り込んだ内容とします。
- ・ 出展者にも京都丹波フェアのつくり手となっていただき、共に連携して相乗効果を高めることにより、フェア開幕に向けた機運醸成を図ります。
- ・ 全国都市緑化フェアの開催要綱および実施要領に基づき、造園技術や花や緑の活動に対するコンテストに加え、地域で活動する人々に焦点をあてた京都丹波フェアらしい参加メニューに対する評価顕彰システムを設定し、地域活動の継続や発展につなげます。

(3) 出展の区分

区 分	出展の種類
屋外出展	自治体出展
	緑化関係の企業団体等出展
	地元企業・団体等出展
	全国造園デザインコンクール
	学校出展（小学校、中学校）
	個人出展
	地域住民出展
屋内出展	山野草の展示

(4) 出展イメージ

■自治体出展



■企業・団体等出展（緑化関係・地元）



■全国造園デザインコンクール



■学校出展



■個人、地域住民出展（屋外・屋内）



(5) コンテスト

- 全国都市緑化フェアの開催要綱および実施要領に基づき、京都丹波フェアにおいても、花や緑に関するコンテストを実施します。
- 全国都市緑化フェアならではの造園技術や花や緑の活動に対するコンテストに加え、地域で活動する人々に焦点をあてた京都丹波フェアらしい参加メニューに対する評価顕彰システムを設定し、地域活動の継続や発展につなげます。

コンテストの種類	審査方法	審査対象
全国都市緑化フェアのルールにそったコンテスト	全国都市緑化フェアのコンテストルールに基づき、出展作品を対象としたコンテストを実施します。	企業団体などによる庭園作品および個人による装飾作品
京都丹波フェアらしい参加メニューに対するコンテスト	京都丹波フェアならではの参加に対し、独自のコンテストを実施します。	地域住民や子どもたちの参加メニュー



1 1 会場運営管理計画

(1) 基本的な考え方

- ・ 快適で安全な空間提供と来場者が必要とする情報をリアルタイムに案内できるサービスを構築します。
- ・ 京都丹波フェアの各事業で展開される様々な取り組みをサポートする会場運営を行います。
- ・ 地域住民、企業、団体、NPOなどとの協働による運営管理手法を積極的に導入します。
- ・ 多くの地域住民がホストとして京都丹波フェアを盛り上げ、キャストとしてフェアに参画・協働し、来場者を「おもてなし」する環境づくりを行います。
- ・ 京都丹波フェアの様々な場面で多くの地域住民がもつスキルを活かせる場づくりや様々な人に出会いコミュニティを広げる機会を創出します。

(2) 計画方針

- ・ 会場運営管理は、安全・安心な会場の保持を行う「会場管理」と、来場者に対して快適な会場づくりを行う「会場サービス」の2つに大別します。
- ・ 会場では、会場管理と会場サービスを基本に、来場者やボランティアの安全性や快適性の確保に努めるため、運営体制の構築と必要な施設の設置を行います。
- ・ 会場運営管理においても、環境に配慮した取り組みを推進します。
- ・ 地域住民、企業、団体、NPOなどとの協働による管理運営手法を積極的に導入します。
- ・ 過去の全国都市緑化フェアにおける実績や現状の管理、運営状況などを踏まえ、運営体制の構築と必要な施設の設置を行います。
- ・ 多くの住民が、楽しみながら無理なくボランティア活動に参加できる機会を創出します。
- ・ ボランティア活動のフォロー体制の拡充とボランティア同士の友好の醸成を図ります。

(3) 計画区分

会場運営を「会場管理」と「会場サービス」の2つに大別し、それぞれ業務項目ごとに各会場の計画方針の検討を行います。

会場運営 【本部】	会場管理	警備・清掃・救護・防災などの安全・安心な会場の保持を行う業務
	会場サービス	来場者に対して、案内・情報提供・物品のレンタル等の各種サービスを提供し、快適な会場づくりを行う業務

(4) 会場管理の計画項目と方針

計画項目	計画方針
会場警備計画	・ 雑踏整理・警戒巡回など、安全管理目的とした警備要員の配置を検討
通門管理計画	・ 入退場管理における要員の配置や入場カウント方法を検討
救護対応計画	・ 救護所の設定や、AED設置（日本救急医療財団、日本心臓財団などのガイドラインを参考に適切な数および場所を検討）を検討 ・ 多客が想定される大きな催事開催日は看護師の配置を検討
清掃、ゴミ処理計画	・ 会場内にゴミ箱の設置は行わないが、飲食出店会場はエコステーションの設置も含めて検討
消防防災計画	・ 来場者の安心・安全を確保するための資材や設備、避難誘導などを検討
保険	・ 来場者はもとよりボランティアを含めた方々が安心して来場できるよう保険加入項目を検討

(5) 会場サービスの計画項目と方針

計画項目	計画方針
情報、案内サービス計画	・ 電話での問い合わせや、現地での問い合わせに対して、円滑に対応を行うため、情報センターの設置や、現地案内所の設置および巡回サービス要員を検討
迷子、落とし物対応計画	・ 誰もが安心して来場いただけるよう対応を検討
外国人、障がい者対応計画	・ 多様な来場者に分け隔てなく会場サービスが提供できるよう対応を検討
貸出サービス計画	・ 車イスやベビーカーの無料貸出の実施について検討
ベビーサービス計画	・ 授乳やおむつ替えのスペースおよびお湯の提供などについて実施を検討
ドリンクサービス計画	・ 自販機設置の検討をはじめ、マイボトル持参の呼びかけを含めた給水スポットの設置を検討

1 2 交通輸送計画

(1) 基本的な考え方

- 京都丹波地域の魅力を伝えるための様々な交通手段の利用を前提に、京都丹波の多様な地域資源、観光資源を周遊し満喫できる事業展開を目指します。
- 円滑な来場者の輸送と会場周辺の生活環境に配慮した交通輸送を行います。

(2) 計画方針

- 交通輸送は、来場方法別に案内・誘導や駐車場などの運用を行う「来場方法別対策」と、想定される問題の対策を行うと共に来場者の安全な案内・誘導を行う「交通対策」の2つに大別して、効果的で効率的な交通計画を立案し、快適で円滑な交通輸送体制の構築に努めます。
- 過去の全国都市緑化フェアにおける実績や現状の管理、運営状況などを踏まえた想定を行い、周辺環境にも配慮しながら交通輸送体制を検討します。
- 京都丹波地域の魅力を伝えるための交通手段の利用についても、積極的に検討します。

(3) 計画区分

交通輸送を「来場方法別対策」と「交通対策」の2つに大別し、業務項目ごとに各会場の計画方針の検討を行います。

また、「交通対策」については、動員予測の結果から想定される諸問題の対策を検討し、計画方針を設定していくものとします。

交通輸送	来場方法別対策	公共交通機関、マイカー、二輪車、徒歩、団体バスなど来場方法別に案内・誘導や駐車場などの運用を行う業務
	交通対策	駐車場不足や渋滞など想定される問題の対策を行うと共に、来場者の安全な案内・誘導を行う業務

(4) 来場方法別対策の計画項目と方針

計画項目	計画方針
公共交通機関での来場者対応計画	・環境にやさしい公共交通機関の利用促進策を検討 ・道路横断箇所など、安心・安全な誘導策を検討
駐車場計画	・既存駐車場の有効利用策を検討 ・多客日は臨時駐車場の運用とその駐車場からの徒歩ルートの案内および安全対策を検討
団体バス対応計画	・団体来場者の確保や旅行商品として活用できるよう団体バス駐車場は事前予約制での運用を想定
おもいやり駐車場対応計画	・会場直近に障がいのある方や高齢者などの駐車スペースの設定を検討
自転車・バイクでの来場者対応計画	・会場直近に駐輪スペースの設定を検討
タクシー対応計画	・会場直近に乗降スペースの設定を検討 ※待機場所の設定検討や配車依頼サービスの検討

(5) 交通対策の計画項目と方針

計画項目	計画方針
臨時駐車場計画	・既存駐車場の満車対応に備え、臨時駐車場の運用を検討
シャトルバス計画	・臨時駐車場の検討に併せ、パークアンドバスライドの運用や、各拠点間シャトルも含めたシャトルバスの運行を検討
渋滞対策、交通規制	・渋滞予測や危険箇所の洗い出しにより、その対策要員の配置や案内誘導サインの設置を検討
来場者の安全な誘導計画	・駅やパーキングから会場までの道路横断箇所などへの安全管理要員の配置などを検討 ・安全で円滑な来場のための案内誘導看板の配置を検討

1 3 行催事計画

(1) 基本的な考え方

- 京都丹波フェア開催前から、フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ京都丹波の多彩な魅力を伝える戦略的な行催事を展開します。
- 地域で活動する多様な主体との協力連携体制の構築を図り、花や緑をはじめとした京都丹波の魅力を発信し、京都丹波地域への関心が高まる行催事を展開します。
- 子どもから大人まで幅広い来場者が京都丹波地域を知り、学び、楽しむことのできる行催事や京都丹波の自然環境、文化・芸術そして原風景をつくる農を体験、体感できる行催事を展開します。
- フェア後のまちづくりについて、参加者や来場者自らが考えるきっかけとなる行催事を展開します。

(2) 計画方針

- 行催事は、フェアの節目に行う「公式行事」と、開催前のPRや開催中の多様なイベントや催しである「催事」の2つの事業に大別します。
- 「催事」は、主催者が主体的に行う「主催者催事」、多様な主体が運営主体となる「タイアップ催事」の2つに区分します。
- 企業および地域と連携したタイアップ催事の受け入れ体制を整備し、多くの地域住民や企業、団体、個人が参加・参画できる「場づくり」を通じて、多くの主体によって京都丹波フェアを盛り上げる行催事を展開します。
- 幅広い世代に対して、2市1町の環境・食農・芸術の催事を通じて京都丹波を体験、体感し、京都丹波の自然や文化の魅力を「再発見」する催事を展開します。
- グローバルな視点で参考にしたたり参画したくなるような、協働をベースとした自然共生の推進のあり方を表現し深める機会を提供します。

(3) 行催事の内容

区 分		内 容	事業主体
公式行事	内覧会	開催前に地域住民の方々やマスメディア関係者などを招待し、フェア拠点などをお披露目する行事	フェア実行委員会
	開・閉会式	フェアの開会及び閉会時に執り行う式典	
	全国都市緑化祭	フェアの中心的行事として、都市緑化の推進を図り、潤いあるまちづくりに寄与することを目的とした皇室のご来臨による式典	緑化祭実行委員会
催事	主催者催事	プレイベント	フェア実行委員会
		カウントダウンイベント	
		テーマ催事	
		フェア催事	
	タイアップ催事	企業団体テーマ催事	企業・団体など
		企業団体PR催事	企業・団体など
		地域共催催事	地域住民・団体など
		地域主催催事	地域住民・団体など

1 4 飲食・物販計画

(1) 基本的な考え方

- 飲食や物販も“京都丹波らしさ”を表現する一つとして、多様な主体との協力連携体制の構築を図り、積極的に展開します。
- 特産品を使ったメニューやご当地グルメなど、子どもから大人まで幅広い層に受け入れられる飲食物販サービスを展開します。
- 出店方法や出店期間など、京都丹波フェアへの参加参画の手法を工夫し、フェアに関わる多くの営業参加店舗の獲得と出店内容の充実を図ります。
- 京都丹波地域における地場農産品のブランド化、付加価値の向上を図ると共に、地域経済の活性化につなげます。

(2) 計画方針

- 生産者や飲食店、民間事業者などと連携・協力して、地域の農産物や特産品などを使用した京都丹波ならではの魅力ある飲食・物販サービスを提供します。
- 各フェア拠点のコンセプトを踏まえ、京都丹波らしい魅力的な飲食・物販サービスを提供します。
- 広報宣伝計画などとの連携により京都丹波地域の農産物や特産品などを効果的にPRし、「京都丹波」の認知拡大を目指します。
- フェア拠点における出店者のみならず、京都丹波地域の民間事業者、団体などへ波及効果が拡大するよう働きかけます。
- 会場における使い捨てプラスチックごみの削減など、来場者や出店者などにも協力を求め、環境に配慮した運営に努めます。

(3) 展開イメージ

(飲食)

- リユース食器の使用を始め、使い捨て容器の使用を可能な限り抑制するなど、環境に配慮した取り組みを推進します。
- 京都丹波産の農林漁業産物を使用した料理や食材の提供、京都丹波の食文化の発信につながる地域色豊かなオリジナルメニューを提供します。
- 京都丹波の商店街や飲食店、朝市などをめぐりながら、堪能できる料理や飲み物、新鮮で豊富な食の魅力を感じられるメニューを提供します。
- 公式ホームページやSNSを活用した店舗情報、催事などを発信します。

(物販)

- 京都丹波の生産者や飲食店、商店や企業、民間事業者などと連携した京都丹波の特産品を提供します。

1 5 協賛計画

(1) 基本的な考え方

- ・ 企業や団体などに対して多様な形での京都丹波フェアへの協力を募ります。
- ・ 参加協賛体制を構築し、各事業に協賛との連携を盛り込み、社会便益を最大化し、支援を最大限獲得する体制を目指します。

(2) 計画方針

- ・ 多様な企業や団体などが京都丹波フェアを通じて社会貢献事業のPRができるよう、参加協賛の最大化を図ります。
- ・ 多様な企業や団体などが京都丹波フェアへ積極的に参加できる仕組みづくりを行います。
- ・ 京都丹波フェアの特性をいかした、地域外からの協賛を呼び込む枠組みを設定し、積極的に推進します。

(3) 展開イメージ

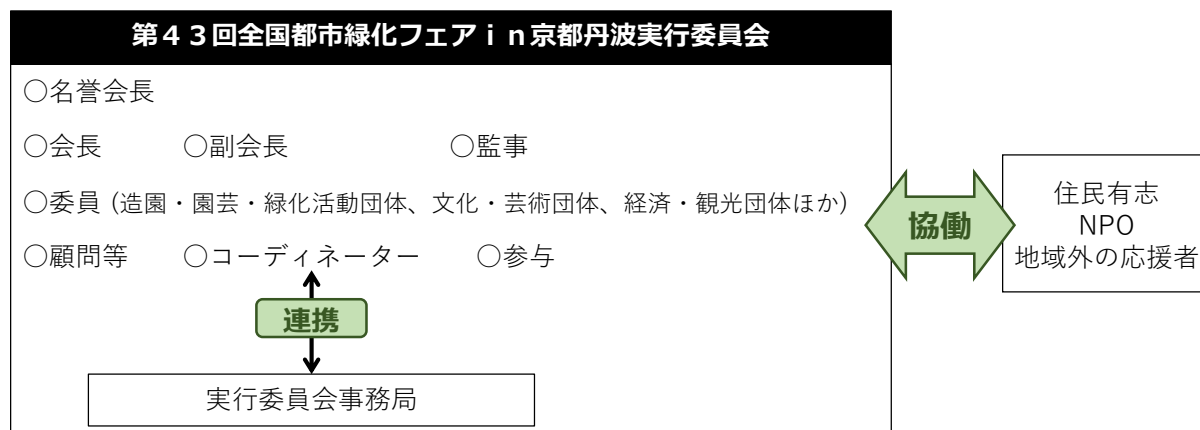
- ・ 計画方針に従って、下記の区分により協賛の内容や手法を整理します。

区 分		協賛内容
直接的 支援	協賛金	京都丹波フェア全般に係る費用の一部となる協賛金の提供
	物品提供	京都丹波フェアの運営に必要な物品やノベルティなどの無償提供
	資材提供	京都丹波フェアで展開する各コンテンツの実施に必要な資材の提供
間接的 支援	催事	会場における催事の実施、運営および無償タイアップ
	出展	庭園や花壇、パネル、映像、環境技術展示などの出展
	役務	参加交流催事や会場設営、運営管理などへの人的支援(作業協力、技術指導など)
	広報宣伝	広報物の無償掲示や設置場所の無償提供、PR催事やキャンペーン活動に関わる無償タイアップ
	フェアスポット	施設やサービスなどの利活用の連携

1 6 事業推進計画

(1) 事業推進体制

- ・ 京都丹波フェアの円滑な事業推進・協力連携を目的として、造園・園芸・緑化活動団体、文化・芸術団体、経済・観光団体などの関係団体や各分野の専門家、行政機関などにより構成する実行委員会を設置します。
- ・ 実行委員会のもと、各種事務を処理するための組織として、実行委員会事務局を設置します。
- ・ 実行委員会を構成する各分野の専門家は、コーディネーターとして実行委員会事務局と連携しながら、事業の企画立案・総合調整を担います。
- ・ 地域住民の有志や京都丹波フェアのテーマに関連した活動を行うNPO、京都丹波地域以外からフェアを応援していただく方々との協働体制を構築します。



(2) 事業スケジュール

- ・ 京都丹波フェア開催の効果を最大化し、その影響を京都丹波地域全体に波及させるためフェア開幕前より関連する既存の催事・イベントなどをプレ事業として実施したり、モデル的なアクションプログラムを実施し、フェア開催の機運を醸成します。

項 目	2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度
計画策定等	基本計画	実施計画	開催準備
事業推進		事業推進 ※可能なものから随時着手 既存の催事・イベントなどをプレ事業として実施	全国都市緑化フェア 持続・継承・発展
会場整備		各フェア拠点・スポットで、 試験植栽・栽培などから適宜着手	
実行体制	実行委員会設立 第1回総会	第2回 総会	第3回 総会 第4回 総会

(3) 事業費

- ・ 約6億円（主催者の支出額で、公園整備費など京都府や各市町の支出額は除く）